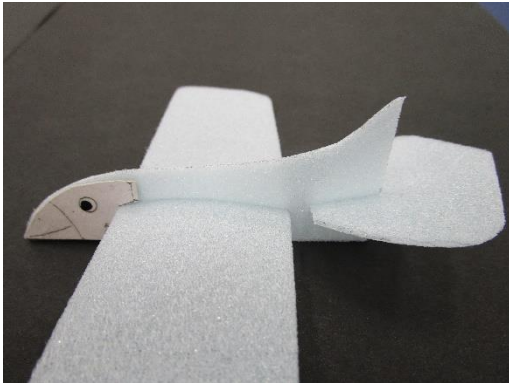


宙返りバード

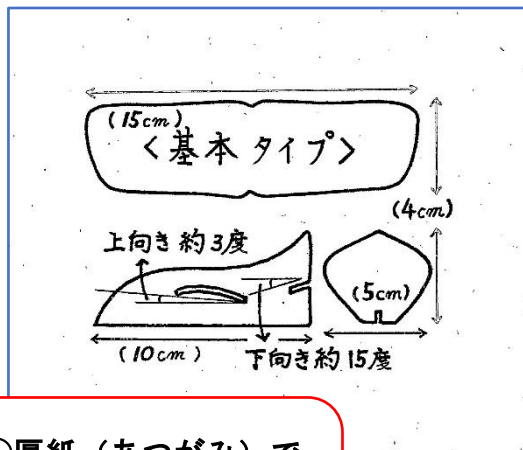
熊本博物館 山口



この科学工作は、1998年「青少年のための科学の祭典・熊本大会」の準備をしているときに、長崎大学教育学部（当時）の川尻伸也先生に教えていただいたものです。

翼（つばさ）の傾き（かたむき）を工夫すると、

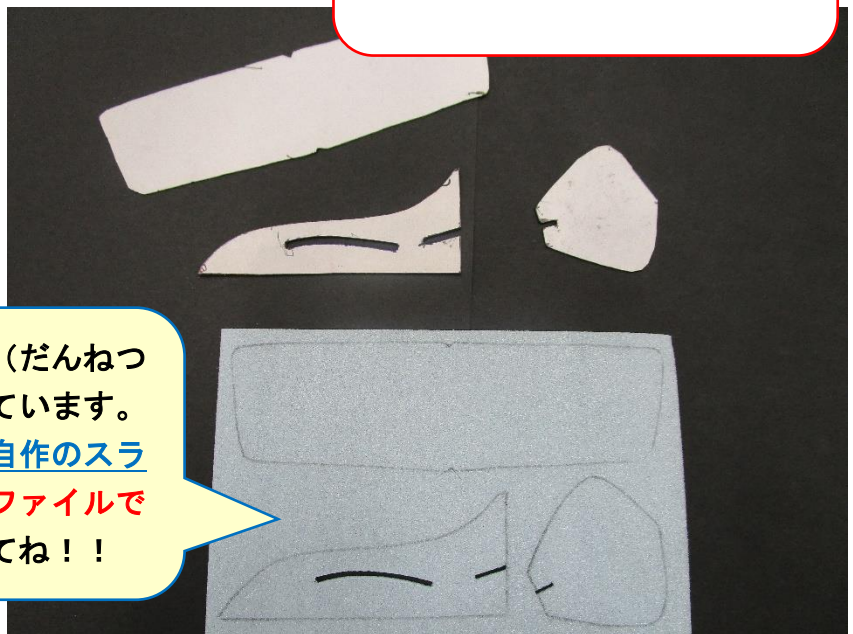
いっかいてんちゅうがえ
「一回転宙返り」して
とびますよ！！



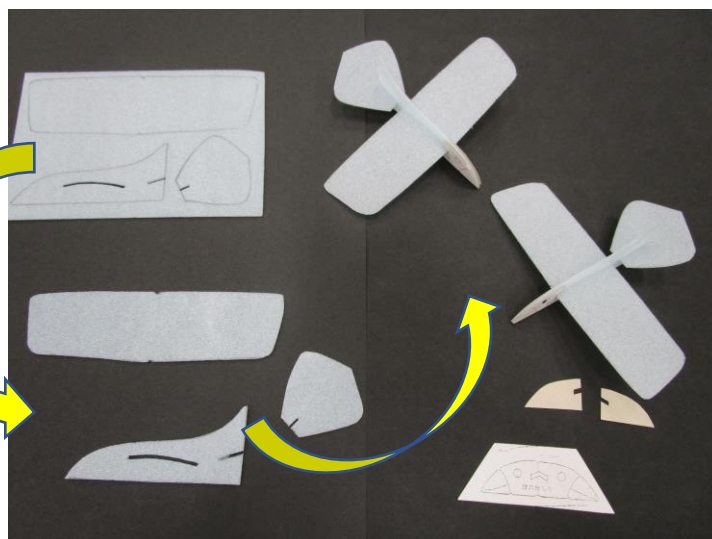
①厚紙（あつがみ）で
図のサイズの「型紙
（かたがみ）」を作る。

②「型紙」をうすくスライス
したスタイロフォームにの
せ、ペンで形を写しとる。

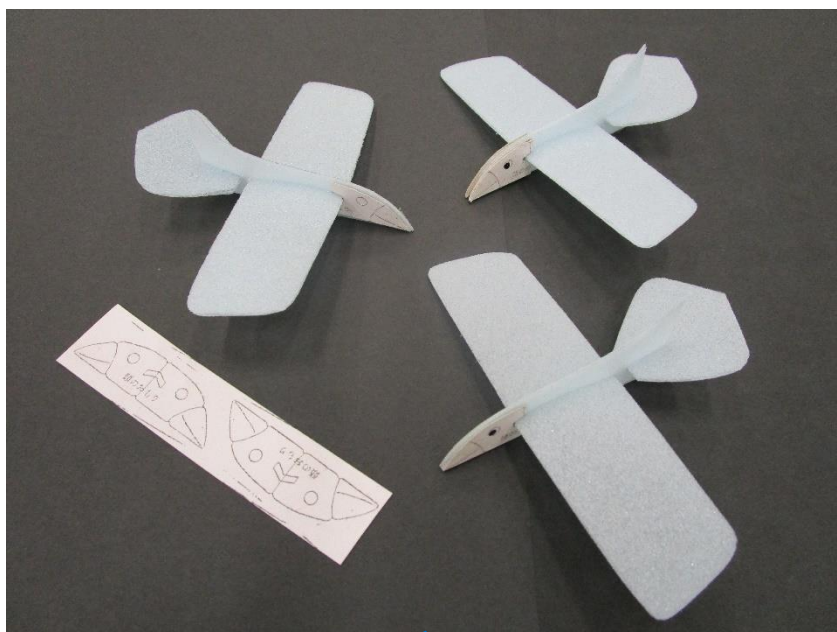
スタイロフォームは断熱材（だんねつざい）として身近に使われています。
スライスするための道具（自作のスライサー）の作り方は、別のファイルで紹介しています。ぜひ見てね！！



③ハサミやカッター
(デザインナイフ) を
使って、ていねいに切り
分け。前羽(まえ
ばね)・後ろ羽(うし
ろばね)・本体(ほん
たい)の**三つ**の部分・
部品を切りはなす。



④3つの部品を、しんちょうに組み立てる(とくに、**本体に前羽を差し込むときは、やさしく、やさしく!!**)。



⑤厚紙にプリントした
鳥の頭(あたま:おも
り)をハサミで切り、
前羽を固定(こてい)
するようにボンドでは
りつける。**【左写真】**

完成!

※ 宙返りバードの「ひみつ」について調べた『自由研究』の例【平成13年「熊本県科学研物展示会」出品作品】を別のファイルで紹介しています。こちら、ぜひ読んでみてください(大切な製作物や研究ノート以外)。

(研究に取り組んだのは、熊本市立日吉小学校5年生(当時)の福島君・後藤君の二人)